

自ぜんとの生活

箸蔵小学校三年 おき さ や こ
沖 紗也子

わたしが住んでいる、徳島県三好市池田町には、吉野川という大きな川が流れています。町に行くための大きな橋がかかっています。家からながめると、山が見えます。川や山にかこまれたところにわたしは住んでいて、空気がおいしくて自ぜんにかこまれたこの町がわたしは大すきです。

はしくら小学校では、毎年、ひなんくん練があります。学校の先生がひなんするときの大事なことを教えてくれます。くんれんは、こわかったけど、さいがいがいつ起こるか分からないと思い、まじめにひなんくん練をすることができました。

大雨がふったときや台風がきたときに、こわい思いをしたことがありました。台風がきたときに、川の水がたくさんふえ、茶色くにごって、ものすごい速さで流れていました。

橋の上まで水がきているのを見たときに、川の水がはしを乗り越えてしまったら、車や人がわたれなくなってしまい、はしのむこう川ではたらいている、お父さんやお母さんが家に帰ってこられなくなると考えたら、ものすごくつらくなりました。家のそばにある山から流れる水が、ものすごい音で流れていてとてもこわかったです。道路にも、茶色い水がたくさん流れていました。家のそばに山があることが、ものすごくこわいと思いました。そして、このときの話をおばあちゃんにしました。おばあちゃんは、「山にある木のねっこが水をすって大きくなり土しゃくずれがおきにくくなっているんよ。」

と教えてくれました。三好市は、山が多いので、木を育てていることを知りました。

三好市が、きれいな市であるためには、わたしたちが山や川などの大切さや自ぜんについてたくさん勉強して知ることが大じだと思います。人間は、山や川などと友だちみたいに、いっしょに住んでいくことが大切だと分かりました。